

研修Ⅱ 丸亀 「トピック単元を楽しく充実したものにするために」

「資料を読んで考えたことを書こう」(5年)

提案者 丸・飯野小 教諭

丸・城東小 教諭

1 提案の概要

(1) 主張点の説明

- ① 「知識・技能の明確化」の視点から
 - ・ 新しい教科書では、「情報を整理して書く」学習内容が系統的に配列されている。
 - ・ 資料から情報を読み取れるだけでなく、自分がどう思ったかや何を伝えたいかというところまで意見がもてるようにしなければならない。
- ② 「言語活動の充実」の視点から
 - ・ 短い時間で効果的に取り組めるワークシートの工夫
 - ・ 充実した学習内容となるように、他の書く単元で既習したこととつなぐ工夫

(2) 実践発表

- ① 資料を活用した書き方を知る。「ユニセフ募金に協力しよう」
 - ・ 文章の中でリーフレットがどのように生かされているか話し合う。
- ② 資料「丈夫な骨をつくるには」を読み、感じたことを書く。(ワークシート1)
 - ・ 資料のどの部分から、感じたかや考えたか、また、何を伝えたいかが分かりやすくまとめられる工夫をしたワークシートの利用。
- ③ 構成メモをまとめ、文章を書く。
 - ・ 既習の序論・本論・結論を意識して書くことができる構成メモ(ワークシート2) まず、一番伝えたいことを結論として書かせる。その結論に合うように、序論・本論に書きたい内容を、ワークシート1から取捨選択させる。
 - ・ 文章を書く段階では、教科書の例文をもとに、読む人をひきつけるための工夫が大事であることに気付かせた。(前半部分や題名)(ワークシート3)
- ④ 文章を推敲し、バージョンアップさせる。
 - ・ 既習の技(問いかけ・数字・体験・倒置法・例えば)を使う。
 - ・ 序論・本論・結論のどの部分かを選んで直させる。
 - ・ 付箋紙の利用・・・1回目、2回目と色を変えて上に張り付けていく。

(3) 演習

- ① 資料から、感じたこと(驚き等)や伝えたいことを、ワークシート1に書く。
- ② ワークシート1で、一番言いたいことを、ワークシート3に、結論として書く。

2 成果

- ・ 枠を工夫したワークシートは分かりやすく、楽しく活動できた。
- ・ 資料から得た情報を並べるだけでなく、既習の技を使って自分なりの文章を作ることで、自分の文章に愛着をもつことができていた。
- ・ 付箋紙を使い、バージョンアップに合わせて色が変わっていくことで、児童は意欲的に取り組むことができた。

3 課題

- ・ 書くことが苦手な児童には、休み時間での補充等支援が必要である。他のトピック単元でも、やる気をもって楽しくできるような工夫をしていきたい。

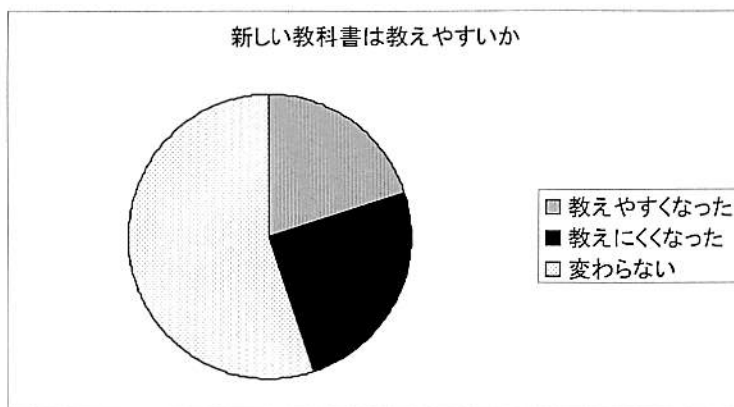
丸・城東小学校 石川節子

トピック単元を楽しく充実したものにするために
「資料を読んで考えたことを書こう」(5年9月教材)

はじめに

23年度から新しい教科書になりました。今年度の始めに新しい教科書を見て、みなさんはどう思われましたか。私は、トピック的な小単元がとても増えていることに驚きました。

そこで新しい教科書について、同僚の先生方(30名)にアンケートを取ってみました。新しい教科書になって学習内容が増えたと感じている方が75%もあり、その理由として80%の方が小単元が増えたことを挙げていました。小単元が増えた新しい教科書は、



25%の方が教えにくくなったと感じており、「配当時間が短いので、どうしても広く浅くという指導になってしまう。」「小単元でも書く活動は、意外と時間がかかって困る。」という意見が聞かれました。反面、「小単元に分かれているほうがねらいがはっきりしていて教えやすい。」という意見もありました。

このような実態から、次々にやってくる小単元を時間に追われて、ただ何となく終わらせていくことがないよう、短い時間の中でも楽しく充実した授業を考えてみたいと思います。

主張点

1 「知識・技能の明確化」の視点から

本単元は、学習指導要領の「B 書くこと(1)エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。」をねらいとしている。本単元と同じように「情報を整理して書く」ことを学習内容にしている他の学年の単元は次のようになっている。

学 年	単元名 (配当時間)	学習内容
2 年 1 月	考えたわけを書こう (4時間)	絵を見て、考えたこととそう考えたわけを書く。

3年 1月	くらべて分かったことを書こう (5時間)	二つのものを比べて、同じところと違うところを整理して書く。
4年 1月	目的に合わせて書こう (5時間)	伝える内容や形式を考えて、文章を書く。 伝えたいことに合わせて、必要な資料を選ぶ。
5年 9月	資料を読んで考えたことを書こう (4時間)	資料を生かして、自分の考えたことが伝わるように書く。
6年 9月	資料を活用して書こう (5時間)	目的に合った資料を活用して、読み手に説明したり自分の考えを述べたりする文章を書く。

このように新しい教科書では、図表や写真などの資料を活用して、調べたことや自分の考えたことを表現する小単元が系統的に配置されている。資料を読み取るだけでなく、そこから自分が何を感じ、考え、どう表現したいかを見つけ出すことができるような教師の支援が必要だ。「人に伝わるように書く」ための内容を子どもにしっかりと考えさせたい。

2 「言語活動の充実」の視点から

小単元が増えたことで、教師はどうしても新しいことを次々と教えないといけないうちが思いがちである。しかし、教師が既習のどの単元とつながっているかを意識することで、大切なことを繰り返し教えることができたり、ねらいがより身に付きやすかったりするのではないだろうか。そこで本単元のような短い文章であっても、今まで学んできた文章のように序論・本論・結論に区切ったワークシートを作り、構成を意識できるようにした。また、6月の「立場を明確にして書こう」で自分の意見を主張するために理由を書いたことを思い出させ、本単元ではリーフレットからの情報が理由になることを助言した。このように既習したこととつなげていくことで、子どもたちは大切なことを忘れないように繰り返し学んでいけると考えた。

資料から情報を読み取る際も、子どもたちが戸惑うことがないように、資料のどの部分からどんなことが分かったか、また何に驚いたり考えさせられたりしたかということがメモできるようなワークシートを用意した。資料の読み取りが苦手な子どもたちのために資料から読み取ったことを話し合う機会もつくり、友達がどんな所に注目して、どのように資料を読み取ったかを学べるようにした。

さらに、文章の構成を考えたり、実際に書いたりするときは、常に結論から始めるようにした。結論から書くことで、結論に合った序論や本論の内容を取捨選択できると考えたからだ。また推敲のときには、資料を引用していれば合格なのではなく、どうやって人に伝えるのが効果的かということも考えさせた。今までに学習した技（例えば、具体的な数字を書く。自分の体験を入れる。など）を使って自分の文章を自らバージョンアップさせていけるように工夫した。

実践例

○ 目標

資料を生かして、自分の考えたことが伝わるように書く。

○ 第1時…資料を活用した書き方を知る。

「資料の読み取り方」を教科書で学び、教科書のリーフレット「ユニセフと世界の子ども」から驚いたことや初めて知ったことを話し合った。その後、「ユニセフ募金に協力しよう」の例文を読んで、文章の中でリーフレットがどのように生かされているかを話し合った。

資料の読み取り方

- ・ 資料の題やキャプションを読み、何について書かれているかを知る。
- ・ 資料の中のグラフや表を読み取る際には、数や量の最も大きい値のところや大きく変化しているところ、他の値と大きく違っているところに注目する。

○ 第2時…資料を読んで、感じたことをワークシートに書く。

教科書の「じょうぶな骨を作るには」の資料を見て、驚いたことや初めて知ったこと、考えたことを書き出した。その内容から、みんなに伝えたいことも考えた。

○ 第3時…ワークシートをもとに構成を考え、文章を書く。

前時に書いたワークシート1をもとにして構成メモを作った。このときに、序論・本論・結論を意識して書けるような構成メモにした。

まず、自分が一番に伝えたいことを構成メモの結論に書いた。そして、その結論に合うように、序論と本論に書くことをワークシート1から選ぶようにした。子どもたちはたくさん選びたが、自分の伝えたいことを考えて、序論で1つ、本論で2つまでの内容にするよう助言し、取捨選択させた。

「資料を読んで考えたことを書こう」 ワークシート1
名前 ()

リーフレットを見て、おどろいたことや驚く心に残ったことを書きましょう。

★国から最近、カルシウムをあまり取らない人が増え、ほねが弱くなっている。
★成長期に骨を強くする時期。女性は11～15歳、男性は13～17歳のあいだでほねが大きくなる。

①骨の専門家は「正常なほねは中がスカスカで、外は硬い。骨粗しょう病は、この硬い外層が壊れる病気。薬のようにはかたまりにくい。」
★牛乳、小松菜、しずく、ごま、とうふはカルシウムが豊富。
★よく食べ、よく寝る、よく運動するのが大切。

カルシウムの多い食品は牛乳、しずく、小松菜、ごま、とうふなどがある。また、適度に体を動かすことが必要。毎日15000歩を歩くと、体を動かすことが大切。

★この資料を読んでみんなに伝えたいことは何ですか？ たくさん毎日多くのカルシウムを取り、毎日体をたくさん動かしてください。

「資料を読んで考えたことを書こう」

ワークシート2

名前()

資料から読み取ったことをもとに構成メモを書こう。

結論	本論	序論
自分の考え	資料の紹介	問題提起 よびかけ
<p>なるべく毎日多くのカルシウムを取り、毎日体を動かして、みなさんのほねをもっとじょうぶにしましょう。</p>	<p>。正常なほねは、しっかりとつまみ、はるけとこつ粗い。症は、スカスカで、こころごとすぐにおれそです。</p> <p>。カルシウムを多く含む食品は、牛乳、小松菜、しらす、ほしごま、豆腐、かあり、ます。そして、1日1リヤ五千歩あるなどの運動もひつきます。</p>	<p>みなさん、カルシウムをよく取り、体をたくさん動かしていますか。</p> <p>。おもに、女性は、15〜19歳のあいだに、ほねが大きくなり、男性は、13〜17歳のあいだに、ほねが大きくなる。</p>

構成メモが完成した子どもから実際に文章を書いた。構成メモのときと同じく、まず結論を書き、次に結論に合うような序論を書くように助言した。教科書の例文が呼びかけから始まっていることに注目し、文章の前半部分で読む人をひきつけるためにどうすればいいかも考えた。子どもたちは、題名も大事だということに気づき、題名を一生懸命考えていた。「もっと序論は、読む人がびっくりするような情報がええな。」と言って、書きながら構成メモを修正する姿も見られた。

文章の書き方

- ・ 資料から引用する時には、「 」を使う。
- ・ 資料の中の数値は正確に使う。
- ・ 分かったことを書くときには資料名を書く。
- ・ 資料から分かったことを書くときには、「…」とあります、～そうです、～によると、などを使う。

○ 第4時…書いた文章を推敲し、技を使ってバージョンアップさせる。

書き終わった子どもから、読む人に自分の言いたいことがさらに伝わるようにバージョンアップさせる「文章きらきら大作戦」をした。今までに学んだことと教科書の例文から、読む人をひきつけるような魅力的な文章にするには、どんな技を使えばよいかを考えた。

「資料を読んで考えたことを書こう」

ワークシート3

名前()

構成メモをもとに文章を書こう。

本 論		序 論	
資料の紹介		問題提起	よびかけ
<p>「このまなことをくり返すとどうなる骨になりますか？」 ほとんどのおすすすめの料理は、アレルギーを避けて、 す味も選べてねたんも高くないし、牛乳 とまぜて出来るので、とてもお手軽です。 また、牛乳とまぜるとカルシウムも取れます。 なるべく毎日、カルシウムを取り、毎日 体を動かして、みなさんの骨をもっとい うづかにしましょう。</p>		<p>資料にあたり、写真と真によると、正常 な骨は、ぎしりと骨がつまってるけ と骨粗しょう症の骨は、スカスカリ で、ころごと、すぐにおれそうです。 カルシウムを多くとる、お食食品は、 牛乳、小松菜、しらす、ほしごま、豆 などがあります。そして、毎日、五歩歩 などの運動も必要です。</p>	<p>題「みんなの骨があつない!!」 みなさん、カルシウムをよく取り、 体をたくさん動かして、いますか？ おもに、女性は、15さいのあいだに ほねが、大きくなり、男性は、17さい のあいだに、ほねが、大きくなるそうです。</p>

バージョンアップさせるために使った技は

- ・ 問いかけ (教科書の例文には序論と本論で使われている)
- ・ 数字
- ・ 自分の体験 (教科書の例文には結論で使われている)
- ・ 倒置法
- ・ 例えば (例えばこんなことができるという内容を読む人に提案する)

序論・本論・結論のどの部分をバージョンアップさせてもよいとし、1回目のバージョンアップはピンクの紙、2回目は黄色の紙に書いて上から重ねて貼るようにした。紙の色が変わることでバージョンアップしていくことが視覚的によくわかり、子どもたちは喜んで自分の文章を修正していった。書くのが苦手な子どもたちもピンクや黄色の紙になるのが嬉しくて、進んで紙を取りに来た。同じ所を2回書き直す子どももたくさんいた。また、教師も紙の色を見て、進んでいない子どもに助言することができた。



ほんのよりにきそく正しい生活をしよう。
 まじいちゃんにもきそく正しい生活をしよう。
 あげたいです。



ほんのおいちゃんも口はいいことしてはいます。だから
 まじいちゃんにもきそく正しい生活をしよう。
 あげたいです。
 きそく正しい生活をしよう。きそく正しい生活をしよう。
 いようにしよう。



結論
 自分の考え
 ほんのおいちゃんも口はいいことしてはいます。
 だからまじいちゃんにもきそく正しい生活をしよう。
 あげたいです。例えば、まじいちゃんは運動が得意な
 意なので二百五十歩あるいたらといてあげたいです。
 きそくもきそく正しい生活をしよう。健康のため。
 いようにしよう。

おわりに ー成果と課題ー

- 同じ資料から読み取ったことであっても、「小さいころからカルシウムをたくさん取ろう」ということに注目した子どもや「好き嫌いをしない」「よく運動して規則正しい生活をする」と考えた子どもなど様々であった。結論を先に考えさせることで、自分の一番言いたいことに合った資料を取捨選択し、文章のどこで述べると効果的かを考えることができたと思う。
- ワークシートを工夫することで、面倒だと思われがちな「書く」学習も楽しくできた。また、ワークシートに枠があることで、短い時間であっても教師の意図が伝えやすかった。
- △ 資料をもとにして自分の意見をもつという活動には、思っていたより苦勞している子どもが多かった。資料についてじっくり考えることができている子どもは、構成メモがスムーズに書けた。資料を読み取るための支援は大切であると実践してよく分かった。
- △ 4時間という時間の中では、個別指導は難しい。本当に書くことが苦手な子どもには、休み時間などの補充が必要になると思う。

